

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1999年(平成11年)9月15日 No. 1136

目次

経済危機1年後のロシア経済①.....	坂口 泉 1
旧ソ連・東欧貿易商況(7月分).....	12
CIS諸国通貨の最新為替レート.....	13

経済危機1年後のロシア経済①

はじめに 1998年8月のロシア経済危機勃発後1年が経過したが、本紙では、今回と次回
2回に分け、ロシアの主要産業の実態調査を主務とする筆者の立場から見た、ロシア経済の
現状を紹介することとする。

1. 経済危機1年後のロシア経済の概況

1995年以降、ロシア政府は、通貨供給量を制限すると同時に、国家の歳入不足を国債発行
で補うという経済政策を開始した。その後、国債市場や株式市場に大量に外資が流入したこ
ともあり、主要マクロ指標(インフレ率、為替等)は目に見えて安定していった。しかし、
その安定を支える基盤は予想外に脆かった。確かに、金融市場や消費市場はバブル景気でに
ぎわったが、資金の流れは偏重したものとなり、多くの生産部門ではバーター等の非現金決
済の割合が一層高まると同時に未払い問題も深刻化していった。当然ながら税収は思ったほ
ど上がらず、歳出構造の抜本的改革も行われなかった。そんな状況の中、1997年秋にアジア
通貨危機が勃発してから外資の流出傾向が強まったこともあり事態は徐々に悪化していき、
ついに1998年8月を迎えたわけである。

経済危機勃発直後は、大混乱が生じ、ハイパー・インフレ、生産の激減、ルーブル・レ
ートの果てしない下落等が不可避であるとの予測が大勢を占めていた。しかし、ロシア政府お
よび中銀の冷静な措置の他、大幅な平価切り下げによるプラス効果や1999年春になってから
の油価の上昇等が追い風となり、ロシア経済は、当初の予想よりもかなり堅調な状況を示し
ている(第1表参照)。たとえば、インフレ率は予想よりも遥かに低い水準に抑えられてい